



5



6



3



4

Paola Lenti 遊び心充分な色が魅力の、アウトドアファニチャー

1994年にグラフィックデザイナー出身のパオラ・レンティが設立したインテリアブランド。素材を最大限に生かしたデザインと、鮮やかな色が特徴として知られている。5 Francesco Rotaが手がけたチェア「サンド」は登山用のロープをヒントに開発された新素材「ROPE」が使われた屋内・屋外兼用で使える家具だ。カビ・防菌効果に優れ伸縮も色落ちもしない優れた素材で、屋外の陽光に映える美しいカラーも魅力的。

Riva 1920 無垢材のあたたかみと、モダンデザインの幸福な融合。

1920年に創立された無垢材家具ブランド。3代にわたり培われてきた木工のノウハウを生かしイタリア最高峰のクオリティを誇る。近年はデヴィッド・チップパーフィールド、ピエロ・リッソニといった建築家やデザイナーとのコラボレーションにより現代の住宅にもマッチするデザインを提供、本物志向の人々に愛されるブランドに成長した。6 Studio Pianoによるチェア「ピアノ デザイン チェア」とMatteo Thunによるテーブル「セレリナ」。

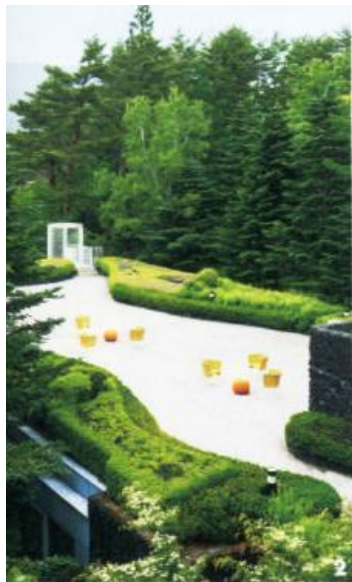


東京・恵比寿にある「アルフレックスショップ東京」では、広々とした空間のなかで生活のシーンに合わせたコーディネート提案に触れることができる。
東京都渋谷区広尾1-1-40 恵比寿プライムスクエア1F ☎03-3486-8899

(P.208)を含め過去3年間で、新たな価格戦略で比較的若いファミリー向けの製品から落ち着いた雰囲気ラグジュアリーラインまで、多様なソファのスタイルを提案。これまで新規顧客よりもリピーターが多くを占めていた販売比率を、新規顧客の数が勝る状態にまで逆転させることに成功。保科卓社長が仕掛けた3カ年計画は見事実を結んだ。

新規顧客を獲得すると同時に、顧客とのよりよい関係も継続して築き上げなければならぬ。品質管理と、納期の短縮化、コストの軽減、メンテナンスの強化を掲げ、2008年に北海道・旭川に自社工場を建設した。

「自社工場を持つことで、3年間でおおよそ15%のプライスタウンと最短で3週間の短納期が実現しました。また、メンテナンスも非常に高い評価を得ています。今後も、良質な製品を長く安心して使っていただき、お客様と深い関係を築いていけるようになったらなによりですね」



2



3



豊かな自然に包まれた、
カーサミア河口湖の使命。



5



4

1 美しいアイビーに覆われた建物はLDI (LIFE DESIGN INSTITUTE) 様。研究開発や取引先企業のセミナーの際などに宿泊施設として使用している。2 サテライト棟の屋上。色鮮やかなパオラレンティの家具が映える。3 木立に佇むB棟。クラシカルで落ち着いたイメージのもとに設計されている。4 サテライト棟の1階では歴代のアルフレックスデザインのチェアやソファが見られる。2階は取り扱い商品をほぼ網羅するショールーム。5 カーサミア河口湖は完全予約制のショールーム兼研究開発施設。北イタリアのリゾート地をイメージした緑に囲まれた敷地で、ゆったりとインテリアを検討することができる。

現在ではイタリア本国よりも規模が大きく成長したというアルフレックスジャパン。その成功の裏側には、イタリアの洗練を受け継ぎながらも、日本人にとっての豊かな暮らしを研究し、自ら率先して生活を楽しむスタッフの存在がある。新製品の開発、既存製品の強化と販売エリアの拡大、社員教育等、未来に向けたプランが水面下で続々と進行中。「アルフレックス」の名を誰しもが知る日も、そう遠くはなさそうだ。

モデルハウス、ショールーム、研究開発と、アルフレックスの思想が詰まった施設が「カーサミア河口湖」だ。広葉樹が美しく彩る4500坪の敷地に、モデルハウスが3棟、ショールーム機能を持つサテライト棟、研究開発を行うLD1棟の5棟の建物がある。

**ブランドの思想を凝縮した、
カーサミア河口湖の存在。**

「新製品の開発をするときにはLD1棟に泊まり込み、実際にプロトタイプを使用し、夜は食事をしながら、何が必要なのかをじっくり議論します。また、一般のお客様を二日3組ほどお招きし、フルアテンドで各棟を巡り製品とともにアルフレックスの考え方を話しします。今の時代、こんな施設を維持しているだけで莫大な費用がかかりますが、カーサミア河口湖に来ていただいたゲストの方々とは、いい関係が築けるケースが多いです」と卓社長。